

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570507806		
法人名	伊藤建友株式会社		
事業所名	グループホーム本荘やすらぎ苑		
所在地	秋田県由利本荘市石脇字山の神11-383		
自己評価作成日	平成23年1月31日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケアの確立(自由・きままにのんびりと。安心・安全に) ・残存能力の活用(本人の出来る事を最大限に活用して頂く) ・全員での外出(遠出の旅行、外食、行事) ・ご家族等に宿泊してもらい交流を深めて頂く ・年に一度の小旅行の実施(全員)
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.akita-longlife.net/evaluation
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成23年2月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>民家を改築し、随所に手すりやスロープを設置して内部の段差を解消し、利用者が自由に生活できるよう環境づくりをされています。広縁のある和室は芸能ボランティアの公演や会議に利用され、利用者が思い思いに過ごせる場所ともなっています。また、町内の広報でホームを紹介していただき、積極的に地域と関わりを持って利用者の生活を支える努力をされています。利用者がそれぞれのペースで、のんびりとした雰囲気生活されており、温かみの感じられるホームです。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関、事務室に掲げ実践に繋げるよう努めている	理念を具体化して実践できるように、職員全員で話し合っって目標を決めて取り組むことを検討しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりを大切にし、近隣の方々と付き合いを行っている。 ボランティアの方も頻繁に来苑して頂いている	犬を連れて立ち寄ってくれる方、お祭りやホームの行事の際の苑庭を利用した地域の方々や子ども達との交流等々積極的に触れ合う機会を設けています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	2ヶ月に1回の運営推進会議において、町内の方々に今まで以上に理解して頂けるよう努力してる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され新規利用者のご家族には必ず出席していただいている。会議では現状報告や意見交換が行われ、サービスの質の向上に努めている	運営者、管理者以外の職員も交代で出席して議事録を残し、更にミーティングで報告されて情報を共有し、サービスの質の向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市開催の「地域ケア会議」には毎月出席し、各種情報を取り入れながらサービスや質の向上に取り組んでいる	運営推進会議やケア会議での意見交換、また、利用者について相談し、助言していただきながら連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉による拘束等ないように注意し合い、見守りながらケアをされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」の研修に参加したり、職員と共に防止に努めている		

グループホーム 本荘やすらぎ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は積極的に研修を受講できるよう機会を持ち、必要に応じて活用できるようにしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書に基づき十分な説明を行い、不安や疑問点に答え安心して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に利用者、ご家族に意見を聞いたり常に運営に反映させるよう努めている	面会時には意見提案の引き出しに努め、運営に活かす取り組みをされています。外部の相談窓口があることも紹介しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議で代表者に意見や提案を行っている	運営者、管理者は職員が意見を言いやすい環境作りに努め、申し送りや日常業務中での意見や提案が運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員が働きやすいよう、環境・整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員が働きやすいよう、環境・整備に努めている管理者や職員一人一人の個性を把握しており、研修の機会を沢山確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と交流する機会が多い。職員も交流を図る機会をつくり向上するよう努めている		

グループホーム 本荘やすらぎ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を十分に聞いて、安心して暮らせるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望にも耳を傾け、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする	初期の段階では優先されるニーズを見極め対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族と同様にお互いに生活しているという意識を持って支えあえるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と共に必要に応じてご家族を支えたり、本人とご家族の良好な関係を築くよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	離れている子供さんや友達への連絡など、関係が途切れないよう支援に努めている	通い慣れた美容院の利用や電話の取り次ぎ等家族の協力を得て、利用者の希望も大切にした支援が継続的に行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声掛けや誘導により自室で孤立しないよう支援している		

グループホーム 本荘やすらぎ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移設されても必要に応じてフォローを行っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望・意向を尊重し、一人一人に合ったケアを検討している	アセスメントや日々関わる中から利用者の意向を把握し、一人ひとりの思いを尊重して本人本位の暮らし方ができるよう取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査で把握した今までの生活環境を踏まえて、サービスに結びつけるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状態や考え方に応じた過ごし方が出来るように援助している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族や関係者と話し合い必要なケアや意見を取り入れ介護計画に反映させている	モニタリングを行って職員で意見を出し合って介護計画が作成され、家族への確認もされています。利用者の状況によって随時の見直しも行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の引継ぎ、ミーティングに職員間の情報の共有に努め、ケアプランの見直しにも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

グループホーム 本荘やすらぎ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の活用及びボランティアの訪問、近隣の方々との交流をしながら安全に豊かな暮らしに努めている		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ての利用者が、かかりつけや主治医との良い関係が構築されている	本人、家族の希望する医療機関で受診されています。ホーム近くの医療機関の定期的な訪問診療も行われていて相談できる体制にあり、適切な医療が受けられるよう支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に代わり管理者や介護者が適切に対処しており、いつでも安心して受診や通院が出来るようになっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院においては、担当の看護師やケースワーカーとの密な連携を取り、本人・家族にとって最良の方法になるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族・医療関係者と十分に話し合い、チームケアでの対応を行い、本人にとって最良の方法を取るよう取り組んでいる	看取りをしない方針であることを説明し、理解を得ています。事業所として対応できることを具体的に説明されており、職員も共通の認識で取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は順次、救急救命の講習を受講させ急変や事故発生に備えています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年3回行っている。災害時は玄関以外(夜間は施錠)どこからでも避難できることを折に触れ、利用者に働きかけている	夜間を想定した訓練も行われています。近隣住民は日中勤務している方が多いため訓練に参加できませんが、協力依頼は日頃から働きかけています。火災以外の災害時の利用者の安全確保についても、敷地内の同一法人のグループホームと連携した取り組みを検討しています。	

グループホーム 本荘やすらぎ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシーや誇りを損ねない言葉掛けや対応に心がけている	利用者の人格に配慮し、言葉遣いにも注意して対応されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞いたり自己決定を尊重する支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活や希望を、出来る限り優先する支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	お化粧のしたい方にはその支援をしている。また、洋服も本人の希望があれば支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、出来る人は一緒に行っている。また、その人の能力にあった準備・片付けが出来るよう支援している	個々の能力に合わせた一連の作業を職員と一緒にを行っています。職員が声かけ、見守りをしながら同じテーブルで和やかな雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養のバランスや水分の量の考査(カロリー計算含む)を行い個々にあった撰に取り組んでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ない人は介助で磨いたり、助言・誘導したり、一人一人に応じた口腔ケアに努めている		

グループホーム 本荘やすらぎ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握して、排泄の自立の支援やオムツ使用者でもトイレでの排泄を実行している	利用者は自身でトイレで排泄しており、職員はさりげなく見守りをしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	「便秘予防対策」委員会を作り、食物による対応、適度な運動等、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れながら、ゆっくり入浴できるよう支援に努めている	本人の希望や体調に配慮した入浴支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の寝具を持ち込んでもらいその人に合った休息や習慣を大切に、夜間の安眠を支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	支援者は一人一人の薬の目的や用法を理解しており、副作用も考慮して、病状の変化を見逃さないように確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来ることを行ってもらようよう支援し、お茶の時間には本人の好きなものを提供できるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	本人の希望によっていつでも出掛けられるよう支援している。苑庭には自由に出入が出来るように、休憩用のイスやテーブル・パラソル等を置いている	計画を立てて電車や車で遠出をして気分転換を図る取り組みもされています。ホームの周囲を散歩したり、家族と一緒に外出する等、戸外に出る機会をつくって支援されています。	

グループホーム 本荘やすらぎ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のしたい人は、自己責任で財布を持っている。普段は苑で預かっている人でも、外出や支払時はなるべく自分で行うよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも自由に自分で掛けられるよう支援している。また、手紙を出したり代筆したり支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間からは常に外の景色が見え、四季を感じる事が出来る。また、不快な音や臭い等が出ないように考慮に努めている	民家を改築し、手すりやスロープを随所に設置して利用者の安全に配慮されています。広い和室の縁側で苑庭を眺めたり、犬を連れて散歩の途中で立ち寄った方と談笑したりと思いいいに過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	居間以外でも廊下や和室で一人になったり、気の合う他者と過ごしたり自由に過ごせるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の使っていた物や気に入った物を持ち込んで頂き、心地良く過ごせるよう支援している	板の間や一部に畳スペースがある部屋等間取りはそれぞれ異なり、暮らしやすいように身のまわりの物を配置して自分の生活スペースを作り出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の分からない人は名前を表示し本人は分かるようにしている。苑内の表示や手摺を利用し、安全に自立できるよう支援している		